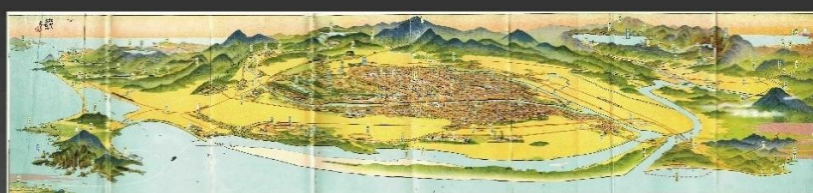




昭和100年記念展

記録資料でたどる秋田の1世紀



**県民の歌
県章募集**

募集規定

秋田県



秋田100年の軌跡

令和8年度 秋田県公文書館・東成瀬村教育委員会・大潟村教育委員会連携展

東成瀬村会場

東成瀬村まると自然館

秋田県雄勝郡東成瀬村椿川字堤31-2
Tel. 0182-47-2362

令和8年5月30日（土）～ 7月5日（日） 午前9時～午後4時30分
休館日 毎週月曜日 入館料無料

大潟村会場

大潟村干拓博物館

秋田県南秋田郡大潟村字西5丁目2番地
Tel. 0185-22-4113

令和8年8月1日（土）～ 12月27日（日）
午前9時～午後4時30分
休館日 9月まで 毎月第2・第4火曜日
10月から 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）
入館料 大人300円、小中高生 100円

秋田県公文書館会場

〔前期展〕 令和8年8月27日（木）～ 9月23日（水）
〔後期展〕 令和8年9月26日（土）～ 10月29日（木）
午前10時～午後5時 休館日 毎週水曜日 入館料無料
* 9月24日（木）は休館日



HP



X



YouTube



Instagram

秋田県公文書館

〒010-0952
秋田市山王新町14-31
Tel 018-866-8301 FAX 018-866-8303
E-Mail koubunshokan@pref.akita.lg.jp
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/kobunsho>

昭和100年記念展「記録資料でたどる秋田の1世紀」

会場：秋田県公文書館 特別展示室

会期：【前期展】 8月27日(木) ～ 9月23日(水)
【後期展】 9月26日(土) ～ 10月29日(木)

【展示の概説】

戦前から現代、そして未来へ——。本展は、公文書館が所蔵する膨大な記録資料を通じ、秋田県が歩んできた激動の1世紀をたどる企画展です。国の広報誌を通して見える日中戦争や太平洋戦争下の緊張感漂う状況から、高度経済成長期の壮大なインフラ構想、昭和44年に思い描いた未来予想図、さらには平成の市町村合併や現代の「秋田再興」の取り組みまで、各時代の課題に挑み続けた「先人たちの足跡」を紐解きます。

【前期展示】（8/27 ～ 9/23）

1. 戦前・戦中の秋田

【概説】

近代国家としての歩みを進める一方、「日本一の油田」と称された八橋の原油産出や、鉄道網・総合運動競技場の整備など、近代的な産業と都市機能が築かれていた時代です。しかし、時が経つにつれ戦局は深まり、広報誌『週報』の紙面が戦果報告から食糧確保へ変化するなど、戦時体制の切迫した影が落ちていきました。

【資料】

「秩父宮殿下同妃殿下御成関係」（930103-11965/昭和11年）

秩父宮殿下が「日本一の油田」である八橋の石油槽に自ら登られた様子や、将軍野遊園地で秋田工業対秋田中学のラグビー試合を観戦された記録です。

【秩父宮殿下同妃殿下、来県】



「秩父宮殿下同妃殿下御成関係」

2. 昭和20年代の秋田

【概説】

日本国憲法の公布とともに再出発を切ったこの時代、人口ピラミッドには戦中戦後の痛々しい歪み残り、樺太からの無縁故引揚者支援に迫られるなど戦争の爪痕が深く残っていました。行政は、食糧増産や水害・冷害の克服に向け、復興と土地改良・資源開発に全力で取り組んでいました。

【資料】

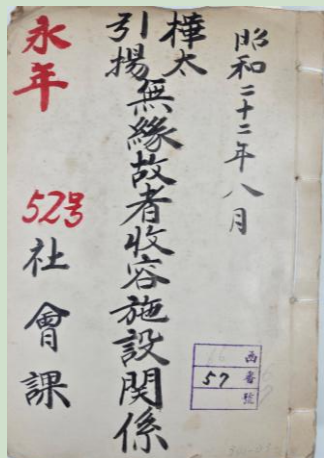
「樺太引揚無縁故者収容施設関係綴」（930301-30003/昭和24年）

身寄りのない引揚者のため、宿泊施設の確保や米・野菜・煙草といった食糧や嗜好品の配給に奔走する行政の実態が記された、戦争の爪痕と復興の歩みを伝える資料です。

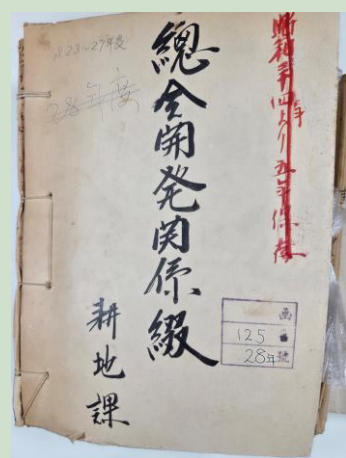
「総合開発関係綴」（930506-30001/昭和27年）

多目的ダム建設や地下資源・水力資源の開発、遅れていた交通網整備を柱に、近代工業の振興を目指した本県の「戦後復興の設計図」です。

「樺太引揚無縁故者収容施設関係綴」



「総合開発関係綴」



3. 昭和30年代から40年代前半の秋田

【概説】

高度経済成長の波に乗り、県民の歌・県旗の制定や八郎潟干拓など、郷土の新しいシンボルと基盤が次々と誕生した時代です。人々の暮らしや技術が急速に進化する中で、未来への壮大な夢が膨らんでいきました。

【資料】

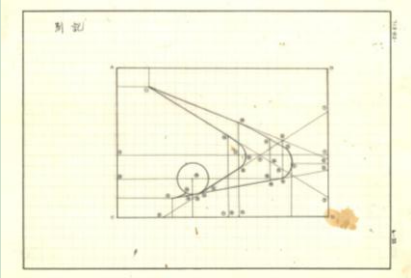
「県民の歌、県旗、県章関係綴」（930103-30550/昭和35年）

公募から審査、レコード製作による普及活動まで、県のシンボル誕生に向けた熱気を記録。県旗の製図法なども収められています。

「広報誌『あきた』」（930103-50995/昭和44年）

当時描かれた「昭和100年（2025年）」の未来予想図。「東京まで1時間」「コックをひねれば牛乳が出る台所」「1日4時間労働」「家庭用コンピューター」など、当時の人々が夢見た未来像が詰まっています。

〔県章・県旗の決定〕



「県民の歌、県旗、県章関係綴」

〔昭和100年の未来予想図〕



「広報誌『あきた』」

4. 戦後の路面電車

【概説】

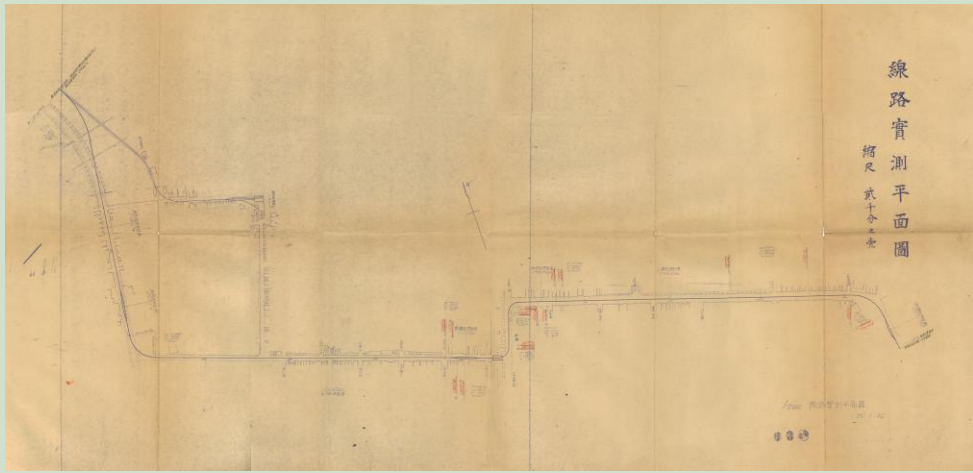
戦後の資材不足と激しい混雑の中、市民の貴重な足として活躍した市営路面電車。他都市からの車両譲受や秋田駅への路線延長を経て成長しましたが、昭和30年代後半以降のモータリゼーション（自動車化）の波に押され、昭和40年末にその役割を終えました。

【資料】

「昭和24～31年「軌道関係書類」秋田一」（930804-30011）

秋田駅から保戸野・県庁前・大町を経由する市営電車の線路実測図や、輸送力強化に向け名古屋市や旭川市から客車を譲り受けるために記録された申請文書です。

〔線路実測平面図〕



「昭和24～31年「軌道関係書類」秋田一」

5. 秋田空港物語

【概説】

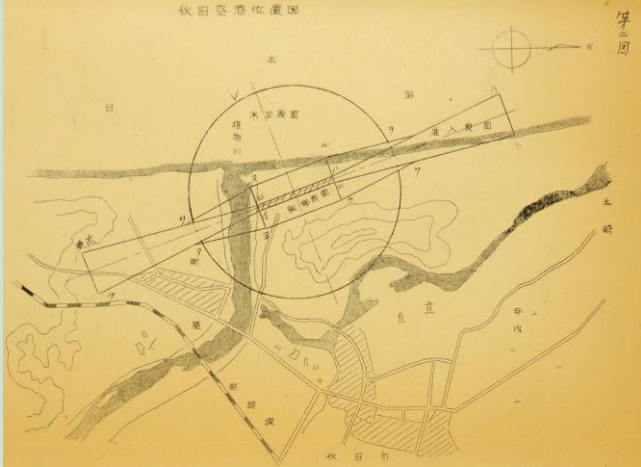
昭和36年、旧手形・割山地区の自衛隊演習場跡地（新屋）に旧秋田空港が開港。しかし、その後の高度経済成長による航空需要の拡大と大型・ジェット化に伴い、雄和（現秋田市雄和）への移転と新空港建設という一大事業へ結実していきました。

【資料】

「昭和56年 大蔵省財産借用関係綴」（970808-00281/昭和36年旧空港関連）

滑走路周辺の「進入表面」が新屋の市街地や大森山を避けるよう設計されていた様子がわかる貴重な位置図・平面図です。

〔秋田空港位置図〕（旧空港）



「昭和56年 大蔵省財産借用関係綴」

「昭和55年 新秋田空港基本計画 第3種空港の設置及び管理飛行場設置許可申請」（970808-00282）

ジャンボジェット機就航に向け、県内5地区9地点から椿川（雄和）を選定し、滑走路を2,500mへと拡張していった新空港建設の精密な計画記録です。

1. 昭和40年代後半から50年代の秋田

【概説】

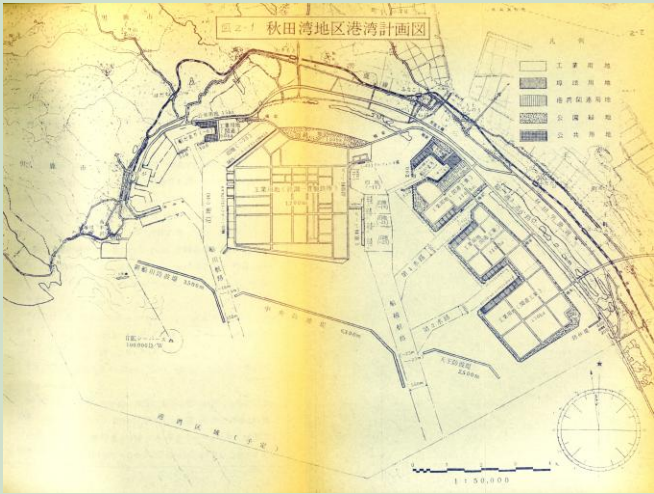
新全国総合開発計画のもと、日本海側最大級の臨海工業基地を目指した壮大な国家プロジェクトが展開された時期です。工業化と自然保護・住民生活の調和を模索しながら、秋田湾の埋立や港湾整備の構想が立てられました。

【資料】

「秋田湾大規模工業開発関連計画調査報告書」

（960205-00405/昭和49年）

「秋田湾臨海開発構想案」を収録。単なるコンビナート建設にとどまらず、自然と人間が調和するコミュニティづくりを目指したマスタープランです。



「昭和53年度 秋田湾新港建設計画調査報告書」

（960205-00268/昭和53年）

25万トン級の大型船が入港できる航路や長大な防波堤を描いた「秋田湾新港（仮称）港湾計画図」が入った、プロジェクトの全容を示す図面資料です。

2. 昭和から平成へ

【概説】

バブル経済期から平成初期にかけ、「全国一日交通圏」を目指した高速交通網の発達と地域活性化（ふるさと創生）が加速しました。中でも秋田新幹線の開業構想は、地元の切実な声や議論を重ねながら一歩ずつ実現へと向かいました。

【資料】

「秋田新幹線」（昭和59年～平成6年）

田沢湖線ルート選定の背景をはじめ、安全確保に向け踏切の立体化や存続を求める地元の請願・陳情書、秋田駅の橋上化をめぐる協議など、開業に向けた地域の歩みを伝える記録です。

「秋田新幹線のデザイン案」（040712-00009/平成5年）

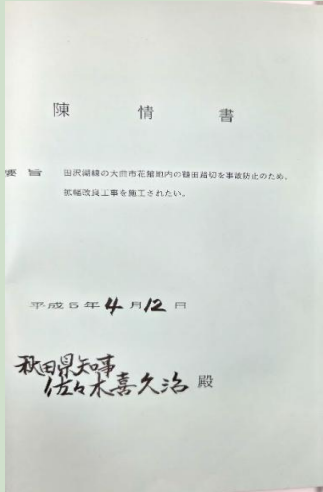
秋田新幹線の構想・開発段階で検討された、鮮やかな「エメラルドグリーン」の初期車両デザイン案などを紹介します。

【秋田新幹線のデザイン案】

【事故防止のために踏切改良を求める陳情書】



「秋田新幹線」



「秋田新幹線」

3. 平成10年代の秋田

【概説】

少子高齢化や地方分権の進展を受け、行財政基盤の強化を目指した「平成の大合併」が推進された時期です。県内69あった市町村が25へと大幅に再編され、広域化する行政体制のもとで、いかに住民サービスや地域コミュニティを維持・発展させていくかが新たな課題となりました。

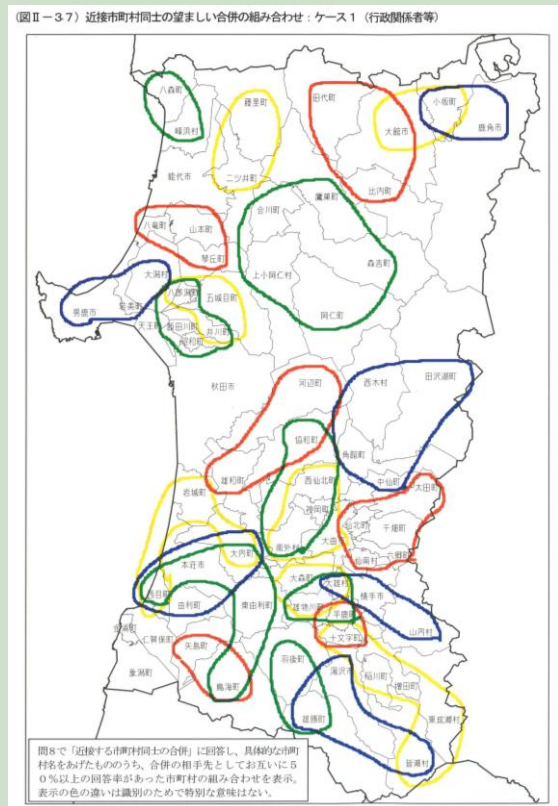
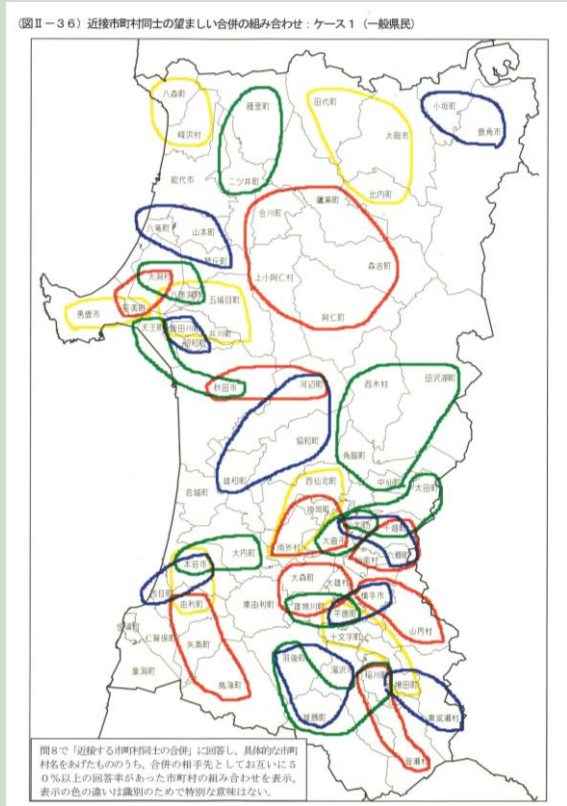
【資料】

「市町村合併に関する県民意識調査報告書」（09-0210/平成14年）

一般県民と行政関係者のそれぞれが望む「近接市町村同士の望ましい合併パターン」など可視化した記録を含む調査報告です。双方の図を見比べると、思い描く地域の枠組みや囲む範囲に具体的な意識の差が見て取れます。

「秋田県における市町村合併の記録」(07-1082/平成19年)
県の最重要課題とされた「平成の大合併」の軌跡。「合併トーク」や「出前講座」、5つの合併パターンの提示など、機運醸成に向けた県の積極的な推進策と、全国トップクラスの減少率(69から25市町村へ)となった再編の歩みを記録しています。

【近隣市町村同士の望ましい合併の組み合わせ【左：一般県民】 【右：行政関係者等】】



「市町村合併に関する県民意識調査報告書」

4. 現在の秋田

【概説】

本格的な人口減少社会に直面する中、豊かな自然や独自の食・文化といった「地域固有の資源」を見つめ直し、持続可能で自立した新たな地域社会(高質な田舎・秋田再興)を創造する挑戦が続いています。

【資料】

「秋田県総合計画～秋田再興への第一歩～」(26-0035/令和8年)

「寛容・挑戦・安心」を基本理念に掲げ、若者の声を反映した「2040年の秋田の姿」を起点に、新時代の産業振興や子育て支援を推進する最新の県政設計図です。

【八橋運動公園計画図】

5. スポーツ立県あきた

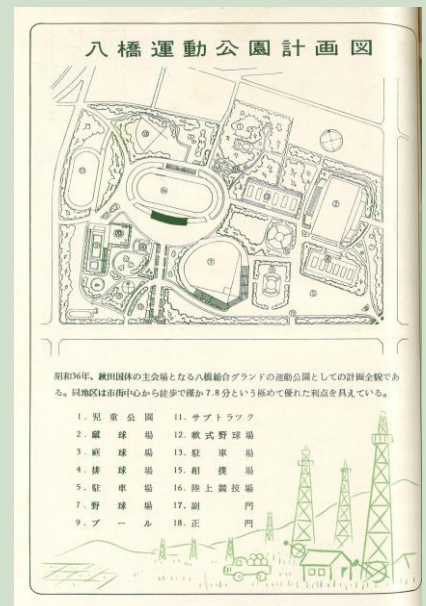
【概説】

昭和36年の「まごころ国体」、昭和59年のインターハイ、平成13年のワールドゲームズ、平成19年の「わか杉国体」など、数々の大型スポーツイベントを実施してきた秋田。おもてなしの心(民泊など)と県民の一体感は、地域の誇りとスポーツ文化を育んできました。

【資料】

「第16回国民体育大会会議資料綴」(930103-30523/昭和36年)

「秋田まごころ国体」に向けた準備委員会の記録。主会場となった「八橋運動公園」の計画図などが収められています。



「第16回国民体育大会会議資料綴」

〈年表〉秋田の1世紀（昭和・平成・令和） 主な出来事

和暦	西暦	日付	出来事・事項
昭和元年	1926年	12月25日	大正天皇崩御、摂政殿下裕仁践祚、昭和と改元
昭和2年	1927年	8月11日	実業家栗原源蔵、秋田市将軍野に運動場遊園地を設置
昭和5年	1930年	12月26日	国鉄五能線、秋田県内開通
昭和6年	1931年	10月17日	国鉄花輪線全線開通
昭和10年	1935年	7月8日	大館駅前に忠犬ハチ公の銅像が建設され除幕式(昭和62年11月14日に再建)
		8月10日	第1回芥川賞に石川達三氏
昭和11年	1936年	6月27日	秩父宮殿下同妃殿下、来県
昭和12年	1937年	7月7日	盧溝橋事件、日中戦争の始まりとなった事件
昭和16年	1941年	12月8日	真珠湾攻撃、アジア・太平洋戦争が始まる
昭和17年	1942年	5月25日	大関照国（秋田県雄勝郡秋ノ宮村（現：秋田県湯沢市））出身、第38代横綱に昇進
昭和20年	1945年	8月14日	土崎空襲
		8月15日	ポツダム宣言を受諾し無条件降伏、終戦の詔書下る
昭和22年	1947年	4月12日	蓮池公咲、第1回公選知事に当選
昭和26年	1951年	2月7日	路面電車、秋田駅前～土崎間の全線で運転が開始
昭和28年	1953年	2月18日	秋田県で初めての国体、第8回国体スキー競技会開催(大館市・大湯町(～2/22))
		4月20日	山田敬蔵選手、ボストンマラソン優勝
昭和30年	1955年	8月6日	道川海岸で第1回ロケット発射実験成功(ペンシル型)
昭和31年	1956年	5月3日	第1回世界柔道選手権大会で夏井昇吉六段優勝
		10月1日	県人口134万9,936人(過去最多)
		12月6日	小野喬選手、メルボルン五輪体操種目別鉄棒で優勝、体操では日本人初の金メダル
昭和32年	1957年	8月12日	明治13年に建てられた県庁舎が火事により焼失
昭和33年	1958年	1月6日	秋田商業高校、第36回全国高校サッカー選手権大会初優勝
昭和28年では224市町村が存在し、合併が一段落した32年6月には72市町村に再編され、その後、39年の大潟村の建設、47年の合併による鹿角市の誕生などにより69市町村となった（昭和の大合併）			
昭和34年	1959年	7月21日	第41回直木賞に渡辺喜恵子氏
		9月26日	公募の「県民歌」と「県章」入選決定
		12月7日	秋田県庁舎現在地に落成移転
昭和36年	1961年	4月14日	木村興治選手、世界卓球選手権大会優勝
		9月2日	秋田民衆駅完成
		9月26日	秋田空港（秋田市新屋）開港
		10月8日	第16回国体開催(～10/13)、秋田市八橋陸上競技場で開会
昭和38年	1963年	11月12日	八郎潟干拓、干陸排水を開始
昭和39年	1964年	10月1日	八郎潟新村「大潟村」誕生
		10月21日	遠藤幸雄選手、東京五輪体操個人総合で優勝、体操個人総合では日本人初の金メダル
昭和40年	1965年	8月29日	8月29日(廃藩置県により立県した明治4年7月14日を新暦に換算した日)を「県の記念日」と定める
		11月1日	秋田市・同周辺、秋田湾地区新産業都市に指定される
昭和41年	1966年	1月17日	第54回直木賞に千葉治平氏
		3月16日	NHKが県内のカラーテレビ放送開始
昭和42年	1967年	5月5日	県立美術館開館
		10月21日	県立男鹿水族館完成
昭和43年	1968年	5月19日	第19回国植樹祭開催(田沢湖畔)
		10月8日	県立体育館完成
		11月10日	楽曲「大いなる秋田」県立体育館で初演(指揮は作曲者の石井欽氏)
昭和44年	1969年	8月2日	秋田農業博覧会開会（～9/25）
昭和45年	1970年	7月1日	寝台特急「あけぼの」上野～秋田間運転開始
昭和46年	1971年	1月3日	秋田工業高校ラグビー部、全国大会最多出場・最多優勝によりラグビー協会から表彰
昭和47年	1972年	8月31日	ミュンヘン五輪レスリングで柳田英明選手が金メダル
昭和52年	1977年	3月31日	八郎潟干拓工事が完成し、17,239haの大地が生まれる
昭和53年	1978年	8月9日	工藤政志選手、WBA世界J・ミドル級チャンピオンに
昭和56年	1981年	6月26日	新秋田空港開港。秋田～東京間を1時間で結ぶ
昭和58年	1983年	5月26日	日本海中部地震発生。翌年、この日を「県防災の日」と定める
昭和59年	1984年	7月31日	全国高校総体、県営陸上競技場で開会式(～8/20)
		9月7日	県が開発した水稻「秋田31号」を、県の奨励品種に採用し「あきたこまち」と命名
昭和60年	1985年	10月1日	由利高原鉄道「鳥海山ろく線」開業
昭和61年	1986年	2月6日	全国高校スキー大会女子リレーで米内沢高校(現:秋田北鷹高校)が4連覇
		11月1日	秋田内陸縦貫鉄道「秋田内陸線」開業
昭和62年	1987年	1月29日	落合博満選手(プロ野球で三冠王3回)に県民栄誉章
昭和63年	1988年	7月13日	第99回直木賞に西木正明氏
		11月2日	太田章選手(レスリング五輪メダリスト(ロス・ソウル))、佐藤満選手(同金メダリスト(ソウル))に県民栄誉章

〈年表〉秋田の1世紀（昭和・平成・令和） 主な出来事

和暦	西暦	日付	出来事・事項
ふるさと創生事業（正式名称：自ら考え自ら行う地域づくり事業）は、昭和63年（1988年）から平成元年（1989年）にかけて実施。竹下登内閣が地域振興を目的に、全国の各市区町村に対して一律1億円を交付。			
昭和64年		1月7日	昭和天皇崩御、翌8日、平成と改元
平成元年	1989年	3月30日	国、「北緯40度シーズナルリゾートあきた」構想を承認
		6月10日	秋田新都市(御所野ニュータウン)の「街びらき」、第1期分譲開始
		8月29日	石井欽氏(「大いなる秋田」作曲)、佐藤菊夫氏(音楽監督、指揮者)、山田久志氏(プロ野球で通算284勝)に県民栄誉章
		11月18日	秋田総合生活文化会館・美術館「アトリオン」がオープン
平成5年	1993年	9月29日	浅利純子選手(第4回世界陸上女子マラソン優勝)に県民栄誉章
		11月2日	県公文書館、東北で最初の公文書館として開館 秋田県立秋田県図書館から秋田県立図書館に改称
		12月9日	「白神山地」が自然遺産として世界遺産に登録
平成6年	1994年	4月8日	秋田市ポートタワー(セリオン)がオープン
		4月20日	「秋田ふるさと村」がオープン
平成9年	1997年	3月22日	秋田新幹線「こまち」開業。秋田~東京間乗り換えなしで最短3時間49分を実現
		7月13日	秋田自動車道全線開通
平成10年	1998年	7月18日	大館能代空港開港
平成11年	1999年	2月25日	能代工業高校バスケットボール部(全国大会優勝チーム・3年連続、9度の三冠、全国優勝通算50回)に県民栄誉章
		4月14日	秋田県立大学、第1回入学式
		7月9日	秋田港と苫小牧、敦賀などを結ぶ長距離フェリー就航
平成12年	2000年	3月3日	県庁第二庁舎が完成し開庁式が行われる
平成13年	2001年	3月24日	県立総合プールがオープン
		8月16日	第6回ワールドゲームズ開催(～8/26)
平成15年	2003年	6月21日	県立野球場「こまちスタジアム」がオープン
平成16年	2004年	3月21日	県立武道館がオープン
		4月8日	公立大学法人国際教養大学、第1回入学式
		11月2日	高橋勇市選手(アテネパラリンピック(視覚障害者クラス)マラソン優勝者)に県民栄誉章
平成18年	2006年	3月27日	県内市町村数が25に(平成の大合併)
		10月20日	小松由佳氏(K2に日本女性として初登頂に成功)に県民栄誉章
			TDK硬式野球部(第77回都市対抗野球大会で初優勝)に県民栄誉章
平成19年	2007年	4月25日	全国学力・学習状況調査(小6・中3)で全国トップレベルに
		9月29日	秋田わか杉国体開催(-10/9)
		10月13日	秋田わか杉大会開催(～10/15)
		11月30日	第62回国民体育大会秋田県選手団(本県初の天皇杯・皇后杯を獲得)に県民栄誉章
平成20年	2008年	6月15日	第59回全国植樹祭開催(県立北欧の森公園)
平成21年	2009年	3月30日	小林範に選手、湊祐介選手(ノルディックスキー世界選手権大会複合団体優勝)に県民栄誉章
平成22年	2010年	8月31日	第55回全国高校軟式野球選手権大会で能代高校が28年ぶり日本一
平成23年	2011年	3月11日	東日本大震災発生
		9月7日	五十嵐俊幸選手(WBC世界フライ級チャンピオン)に県民栄誉章
		9月25日	江畑幸子選手(ロンドン五輪バレーボール女子メダリスト)に県民栄誉章
平成25年	2013年	6月3日	三浦隆司選手(WBC世界スーパーフェザー級チャンピオン)に県民栄誉章
		7月13日	「海フェスタおが」開催(～7/28)
平成26年	2014年	10月4日	第29回国民文化祭・あきた2014開催(～11/3)
平成28年	2016年	8月16日	豪風関(県出身力士の幕内最多勝利数更新)に県民栄誉章
平成29年	2017年	4月1日	県内人口99万9,636人となり100万人を割る
		9月9日	第30回全国健康福祉祭あきた大会ねりんピック秋田2017開催(～9/12)
平成30年	2018年	1月30日	米元小春選手、田中志穂選手(バドミントン世界大会(ワールドスーパーシリーズ・ファイナルズ)で優勝)に県民栄誉章
		8月21日	金足農業高校、第100回全国高校野球選手権記念大会準優勝
		10月2日	永原和可那選手、松本麻佑選手(第24回世界バドミントン選手権大会で優勝)に県民栄誉章
		11月28日	金足農業高校野球部(第100回全国高等学校野球選手権記念大会において準優勝)に県民栄誉章
令和元年	2019年	9月7日	天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会開催(～9/8)
令和2年	2020年	4月17日	新型コロナウイルス感染症対策に係る「秋田県緊急事態宣言」(～5/14)
		9月16日	菅義偉氏(湯沢市秋ノ宮出身)秋田県出身者初の内閣総理大臣就任
令和3年	2021年	7月27日	「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録決定
令和4年	2022年	6月5日	「あきた芸術劇場ミルハス」が開館
		10月29日	秋田米新銘柄「サキホコレ」が本格的に販売開始
令和6年	2024年	10月24日	志田千陽選手(パリオリンピックバドミントン女子ダブルス銅メダリスト)に県民栄誉章

※『あきた県民手帳（2026年）』『秋田のあゆみ』『あきた 昭和史年表』をもとに作成

〈表〉昭和100年 歴代知事

No.	歴代	名前	在任期間（和暦）	在任期間（西暦）	出身地	展示コーナー
1	第28代県知事	中野 邦一	大正15～2年	1926～1927	佐賀県	戦前・戦中の秋田県
2	第29代県知事	力石 雄一郎	昭和2～3年	1927～1928	愛媛県	戦前・戦中の秋田県
3	第30代県知事	鯉沼 巖	昭和3～4年	1928～1929	大分県	戦前・戦中の秋田県
4	第31代県知事	菊池 慎三	昭和4～5年	1929～1930	愛媛県	戦前・戦中の秋田県
5	第32代県知事	稗方 弘毅	昭和5～6年	1930～1931	熊本県	戦前・戦中の秋田県
6	第33代県知事	内田 隆	昭和6～7年	1931～1932	福島県	戦前・戦中の秋田県
7	第34代県知事	武部 六蔵	昭和7～10年	1932～1935	石川県	戦前・戦中の秋田県
8	第35代県知事	児玉 政介	昭和10～12年	1935～1937	東京都	戦前・戦中の秋田県
9	第36代県知事	本間 精	昭和12～13年	1937～1938	新潟県	戦前・戦中の秋田県
10	第37代県知事	佐々木 芳遠	昭和13～14年	1938～1939	宮城県	戦前・戦中の秋田県
11	第38代県知事	留岡 幸男	昭和14～15年	1939～1940	岡山県	戦前・戦中の秋田県
12	第39代県知事	岩上 夫美雄	昭和15～18年	1940～1943	東京都	戦前・戦中の秋田県
13	第40代県知事	長船 克巳	昭和18～19年	1943～1944	岡山県	戦前・戦中の秋田県
14	第41代県知事	久安 博忠	昭和19～20年	1944～1945	岡山県	戦前・戦中の秋田県
15	第42代県知事	池田 欽三郎	昭和20～21年	1945～1946	三重県	昭和20年代の秋田
16	第43代県知事	磯部 巖	昭和21年	1946	愛知県	昭和20年代の秋田
17	第44代県知事	蓮池 公咲	昭和21～22年	1946～1947	新潟県	昭和20年代の秋田
18	第45代県知事	渡辺 瑞美	昭和22年	1947	鳥取県	昭和20年代の秋田
19	第46代県知事（初代公選知事）	蓮池 公咲（再）	昭和22～26年	1947～1951	新潟県	昭和20年代の秋田
20	第47代県知事	池田 徳治	昭和26～30年	1951～1955	秋田市	昭和20年代の秋田
21	第48～53代県知事	小畑 勇二郎	昭和30～54年	1955～1979	北秋田郡早口村（現大館市）	昭和30年代から40年代前半の秋田
22	第54～58代県知事	佐々木 喜久治	昭和54～平成9年	1979～1997	鹿角郡小坂町	昭和から平成へ
23	第59～61代県知事	寺田 典城	平成9～21年	1997～2009	仙北郡大川西根村（現大仙市）	平成10年代の秋田
24	第62～65代県知事	佐竹 敬久	平成21～令和7年	2009～2025	仙北郡角館町（現仙北市）	現在の秋田
25	第66代県知事	鈴木 健太	令和7年～	2025～	大阪府生まれ 兵庫県神戸市育ち	現在の秋田

1

2

3

4

5

6

7

8



9

10

11

12

13

14

15

16



17(19)

18

20

21

22

23

24

25

